

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300282		
法人名	(株)寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3-16		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様自身が出来ることを最大限に活かし、一人ひとりが活躍できる環境づくりに努めている。
 笑顔が溢れる日々を過ごしている。
 ・同じ敷地内にデイサービスと居宅介護支援事業所があるので、連携が取りやすい環境である。
 ・コロナ禍で本年度は家族交流会を実施出来ず、面会制限を掛けているので面会も減少。
 電話や文書等で定期的にご家族との意見交換を行っている。
 窓越しの対面やビデオ通話を実施し、訪問しやすい環境を整え多くのご家族に活用いただいている。
 普段から対話する事で、スタッフ間との信頼関係も向上している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前には、緑豊かな林が広がり、自然に囲まれた、環境に恵まれた立地である。事業所に併設して、デイサービスや居宅介護支援事業所があり、連携が取りやすいことも強味となっている。オープンして15年が過ぎ、法人の理念を、基本にして、事業所の目標「皆様の笑顔を絶やさない」を合言葉に、例年は、利用者の、希望に沿った、初詣、お花見、ひな人形展などを楽しんでいた。今年は、コロナ禍で、室内での、節分やバレンタインデー等のレクリエーションを楽しんでいる。ハンバーグや鰻のテイクアウトをしたり、おやつレクリエーションでパンケーキ、たこ焼きなど作ったりすることも喜ばれている。職員の離職が少なく、10年以上勤務の職員が多い。利用者との距離も近くコミュニケーションも密に取れている。また、二か所の提携医があり、訪問看護、訪問歯科なども連携し、安心の体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入り口に理念を掲示している。各ユニットで毎年「今年の目標」を掲げ、実践するように努めている。	法人の理念は、事務所に掲示している。2つのユニットの共通目標は、「皆様の笑顔を絶やさない」としている。例年は、希望に沿った外出に力を入れていたが、今年は、室内でのイベントを多くして、節分、バレンタインなど楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は町内会のお祭りや運動会など、参加していたが本年度はコロナ感染対策の為に中止になってしまい、交流活動は減少。	行政からの指示で、イベント、行事、会議などは、全て中止となった。近所を散歩したときは、近隣の住民から、花など頂いて交流している。例年は、唄の会、パントマイム、寸劇、カラオケなどの、ボランティアも活発であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は運営推進会議に地区の自治会長にご参加いただき、認知症の方や施設についての理解をお願いしていたが、コロナ感染対策の為に開示自体が中止、回覧にてお知らせする程度になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為に、本年度は中止。議事録を郵送し、情報提供している。	例年2か月1回開催の、運営推進会議は、コロナ禍で中止となった。代わりに、事故報告、行事報告などの議事録を作成して、市の窓口を始め、地域包括支援センター、民生委員、家族代表、自治会長などに、配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月の運営推進会議、3か月毎に開催されていた連絡部会も本年度はコロナ感染対策の為に中止。書面やメールにて情報交換をしている。	例年は、地域密着事業者連絡部会が開催されていた。今年度は、行事報告、空室状況、平均介護度など、書面で報告している。また、例年は、各事業所の利用者が作った、置物、切り絵等の作品展が、市役所ホールで開催されていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月にて身体拘束的成果検討委員会を実施。カンファレンスを行い身体拘束ゼロに向けての取り組みを図っている。	2か月に1回「身体拘束適正化委員会」が開かれている。四点柵、車椅子のベルトなど、如何に減らせるか、討議している。日々の支援の中で、「ちょっと、待ってて」等、スピーチロックなどあれば、その都度、注意し合っている。なお、研修も、本社から資料が来て、定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施、全職員の意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で必要な方はいないが、すぐに支援できる様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結時には入居者様、ご家族に十分な説明を行い、不安点や疑問点がないか確認、納得いくまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年にご家族代表の方に運営推進会議へご出席いただき意見・要望をうかがっているが、本年度は会議中止の為、文書や電話にて伺った。 いただいたご意見を運営に反映している。	例年は、年に3回から4回家族会を開いて、意見や要望を聞き取っている。今年は、SNSやテレビ電話を使い、意見交換している。家族が利用者に会えないので、月1回の「お便り」を大型にして、写真を多く掲載して、日々の暮らしを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開催し、職員間の意見交換を実施。ノートやタブレットを活用し、連絡や相談が密になる様努めている。	毎月フロア会議を開催、事前に案内して、その日の参加者に、予めメモで意見を求めている。利用者へのケアの方法、おやつレクリエーションの充実など、多岐にわたる意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、人事考課表を実施。 職員の自己評価を踏まえて上司が面接を行い悩みや要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度はコロナ感染対策の一環で外部での研修は自粛、職場間において勉強会を実施し、能力向上に努めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年では市役所主催の連絡部会が年4回開催されているが本年度はコロナ感染対策の為中止。 メールや電話にて他施設との情報交換を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調や入居前の面談でご本人の要望を聞いている。 ご本人の様子を見、お話を聞きながら安心していただけるよう声掛けなどを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お家での様子や心配、希望を伺いながら不安を減らし可能な範囲内で希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを把握し、困っていることの解消の為に様々なサービスを念頭においている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	整容や身の回りの整理整頓、食後の食器拭きなど、出来る限りご利用者様に行っていた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはお便りや電話など、まめに連絡を取っている。 訪問しやすい環境を整え、相談に乗りながら共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や好きなこと、人とのかわわりがまったく変わってしまう事がない様、支援している。	例年は、知人、友人の来訪も多かった。馴染みの美容院やお墓参りに出かけ、自宅に帰る人もいた。コロナ禍で、従来出来たことが、不十分であったが、年賀状や暑中見舞いなどのサポートをして、馴染みの関係の維持に、努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりはなるべく邪魔せず、見守りに重点をおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退所、死亡退所後もこまめに連絡をとり、関わりを絶たないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを多く持ち、その方の思いを知り、一人一人が自分らしく過ごして頂けるよう努めている。 困難な場合は、現状を把握し少しでも思いがくみ取れるように努めている。	実地調査で、過去の生活歴、趣味、嗜好、入居後どの様に過ごしたいのか、家族にどのような支援が必要かを聞き取っている。日々の支援のなかでは、「絵が描きたい」「ノンアルコール」が飲みたいなど、様々な要望をくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネやご家族からの情報提供を確認し、今までの状態や暮らし方を把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、出来る事とできなくなってきた事などはカンファレンス等で情報交換している。ストレスを感じている方には、できる限り話を傾聴する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、ケアでの気付きや意見交換をして現状にあったケアプランの作成に努めている。	月1回のフロアー会議で、ケアカンファレンスが行われている。ホーム長、ユニットリーダー、当日の職員、ケアマネジャー等が参加して、生活記録、バイタル、申し送り等を基に、みんなで意見を出し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアでの気付きや情報を個別ノートに記入し、全スタッフが周知出来る様共有している。 ケアの実践後は評価し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあった最善のサービス提供が出来る様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達の見守りで安全に過ごすことができ、ボランティアとの交流では笑顔で楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った医療機関と連携し、特変があった時には連絡し指示を仰いでいる。	提携医が二か所あり、それぞれ月2回訪問診察がある。事業所に近い提携医は、24時間オンコール体制で対応している。訪問看護は毎週来訪し、訪問歯科は、希望者受診として、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師に状態を見ていただいている。気になる事は相談し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ介護サマリーを提供し、情報交換に努めている。ホームで急変した場合の対応などは事前に往診医と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族の意向をうかがい、往診医や看護師と連携を取りながらホームでできる限りの事をするよう努めている。	契約時、終末期の対応について説明している。重度化してきたら、かかりつけ医、看護師、事業所、家族と相談しながら、どこで最期を迎えるか相談している。看取りも行っている。今年度も4名の看取りの経験があり、看取りの体制は、整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージや喉に詰まらせたときの対応など、消防署の方に教えていただき、全スタッフが周知する様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方達がみえ、夜間を想定した避難訓練や消火訓練をDSのスタッフと合同で行っている。	年2回避難訓練を行っている。今年度は、コロナ禍で、消防署の立ち合いはなく、報告書の提出となった。誘導、消火訓練を行い、日中は、隣接のデイサービスと共同で実施している。飲料水、お粥などレトルト食品4日分が、備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、プライバシーや自尊心を損なうことがないように日頃より声がけなどに注意し接している。	トイレのドアは、開ければなしにしない。お風呂では、脱衣所は、介助の人以外入らないなど、プライバシーを守っている。また、家族のような、親しい付き合いであるが、過ぎた言葉使いには、注意するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を好みの物にしたり、担当がアセスメントしてご本人の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	の会話の中から、本人の要望や思いを汲み取るよう努めている。 その人らしい生活が送れるよう、出来る範囲で希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択やメイクなど、満足が行く身嗜みが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で食器吹きなどのお手伝いをお願いしている。役割を持つことで満足感を得られるように努めている。	食材は外注で、献立、カロリーは、計算されている。出来る人は、食器拭き、食器洗い、テーブル拭き等、手伝っている。イベント食や、テイクアウトのハンバーグや鰻は、楽しみのひとつとなっている。パンケーキ等のおやつレクリエーションもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食など、対応している。 水分摂取量が少ない方は、水分補給が常に出来る様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア(歯磨き)を実施している。 必要な場合は介助を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を生かして声掛けを実施。排泄サインを見逃さないよう注意深く見守っている。	排泄チェック表と記録システムの併用となっている。日中は、定時に声掛けして、トイレに座ることを心掛けている。夜間は、パッドの交換や、オムツ使用の人もいる。退院後の排泄支援は、車椅子から、手引き誘導で、トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳など)をおやつに取り入れている。また、レクリエーションで腸内運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の希望や体調、バイタル状況等をもとに、柔軟に対応している。	週2~3回の入浴としている。時間帯は、概ね午後2時から4時としている。現在、入浴嫌いな人はいない。好きな入浴剤や、マイシャンプーを使う人もいる。ゆず湯やしょうぶ湯もあり、職員と1対1で、会話も弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮しながら、昼寝をすすめたり、就寝時間を変更してケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬一覧をスタッフの目の届く場所に表示して効能や副作用について把握できるようにしている。 症状の変化をNSやDrに都度報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片付けやチラシでのゴミ箱作りなど、出来る範囲内でお願している。役割をもっただけ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日はホーム近辺へ散歩に出掛けたり庭で日向ぼっこをしている。 本年度はコロナ感染対策の為外食会などの外出レクリエーションは中止している。	例年は、初詣やお花見、鴻巣のひな人形展などを楽しんでいた。今年は、コロナ禍で、遠出は、出来ないが、天気のいい日は、近所の散歩を、楽しんでいる。今年は、正月に室内で全員が着物を着て写真撮影するイベントが行われ、大変喜ばれた。	今年は、コロナ禍で、外出支援が出来なかった。室内でも出来る、様々なレクリエーションや体操などの、運動の充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム長が管理している。買い物の希望がある時はスタッフが代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	私物の携帯電話を持っている方は時間を決め使用いただいている。 季節ごとに送るお手紙に一言書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物を制作したり、展示している。 整理整頓はもちろん、トイレの場所が分かりやすいようにプレートを表示	感染症対策としては、2時間毎の換気、手すりやドアノブなどは、1日3回消毒している。空調、空気清浄器、加湿器などが、備え付けられていて、快適な共有空間となっている。壁や廊下には、季節を感じる、切り絵、塗り絵等が飾られている。掃除は、職員が中心で、出来る人は、手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相撲観戦やニュースをご覧になることが好きな方はなるべくTVの近くの席にしたり、窓辺が好きな方はそのようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みや本人の思い出(写真や趣味など)をお持ちいただいている。 ベッドは介護用ベッドを利用しているが、寝具に関しては使い慣れたものを使っている。	空調、クローゼット、洗面台は、備え付けられている。テレビ、チェスト、仏壇、家族の写真など、使い慣れた物、趣味の物など、在宅の延長で、何でも持ち込んでいる。掃除は、職員が行っているが、自分で、モップがけなどする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の動線は常に確保しており、手すりも利用しながら歩行しやすい環境を整えている。 出来る事はご自分で行っていただき、職員は極力見守りに努める。		